

一輪車競技大会のリレーについて

2021/6/1

1 概要

2018年度日本陸上競技連盟競技規則（ルール）では2017年度規則からの修改正により、バトンパスが行えるテイク・オーバー・ゾーンが20mから30mになることになりました。また、2019年度までの規則では、バトンが受け手（後走者）に触れ、受け手が唯一の保持者（渡し手を離れ、受け手だけが持っている状態）になるまでの間に落としたバトンは渡し手、受け手のどちらが拾っても構わないというものでしたが、2020年度の規則では「渡し手が拾う」になりました。

これらにより、陸上競技場のコースのマーキングも変更されるため現状の一輪車競技規則で対応するには、その都度マーキングをしないといけなくなります。もともと一輪車のレース部門の規約は陸上競技場で行うため日本陸上競技連盟競技規則を参考にして作成されている為、一輪車競技に於いても2021年度開催大会より、リレー（テイク・オーバー・ゾーン）について、改正する運びとなりました。

2 陸上競技のルール（抜粋）2021年度日本陸上競技連盟競技規則より

* TR〇〇とは上記競技規則内の条文番号です。 [p157_218.pdf \(jaaf.or.jp\)](http://p157_218.pdf(jaaf.or.jp))

24.3 4×100m Rと4×200m Rの全走者間、およびメドレーリレーの第1走者と第2走者間、第2走者と第3走者間のテイク・オーバー・ゾーンは30mとし、ゾーンの入口から20mが基準線となる。メドレーリレーの第3走者と第4走者間、4×400m Rおよびそれ以上の距離で行われるリレー種目のテイク・オーバー・ゾーンは基準線を中心に20mとする。ゾーンは、走る方向においてスタートラインに近い端を基点とする。レーン内で行われる各バトンの受け渡しについて、担当する競技役員は、各競技者が正しいテイク・オーバー・ゾーンの位置にいることを確認する。また、その競技役員はTR24.4が確実に遵守されるようにしなければならない。

監察員は、各チームの各選手が正しいレーンまたは位置で自身の位置をとるようにしなければならない。出発係は、最初のランナーの配置と各バトンを実際に渡す責任がある。出発係はまた、テイク・オーバー・ゾーンのスタートラインを支援するために割り当てられることもある。各テイク・オーバー・ゾーンの監察員主任と配置された監察員は、次走者の位置取りが正しいかどうか確認する責任を負う。すべての競技者がゾーンに正しく位置についたなら監察員主任は、合意された連絡手段（主要競技会では通常無線機）によって、関係する他の競技役員に連絡する必要がある。監察員はまた、各テイク・オーバー・ゾーンにおいて、バトンを受け取る際に移動を開始する前に、出走するランナーの足がゾーンに完全に入っていることを確認しなければならない。この動きは、ゾーン外のいかなる場所で開始されてもいけない。

24.6.3 もしバトンを落した場合、落とした競技者がバトンを拾って継続しなければならない

ない。この場合、競技者は距離が短くならないことを条件にバトンを拾うために自分のレーンから離れてもよい。加えて、そのような状況でバトンを落としたとき、バトンが横や進行方向(フィニッシュラインの先も含む)に転がり、拾い上げた後、競技者はバトンを落とした地点に戻ってレースを再開しなければならない。上記の手続きが適正になされ、他の競技者を妨害しない限りは、バトンを落としても失格とはならない。競技者がこれらの規則に従わなければ、そのチームは失格となる。

- 24.7 バトンは、テイク・オーバー・ゾーン内で受け渡されなければならない。バトンの受け渡しは、受け取る競技者にバトンが触れた時点で始まり、受け取る競技者の手の中に完全に渡り、唯一のバトン保持者となった瞬間に成立する。それはあくまでもテイク・オーバー・ゾーン内でのバトンの位置のみが決定的なものであり、競技者の身体の位置ではない。テイク・オーバー・ゾーン外でのバトンの受け渡しは、失格となる。

〔注釈〕

バトンパスが開始され、バトンパスが完了していない状態でバトンを落とした場合には、バトンは渡し手(前走者)が拾わなくてはならない。バトンパスが完了し、受け手(後走者)が唯一の保持者となった後にバトン落としたら、受け手が拾わなくてはならない。

バトンの位置を決めるにあたっては、バトン全体を考慮する必要がある。監察員は、バトンがテイク・オーバー・ゾーンに入る前に、次走者がバトンに触れる位置を確実に観察する必要がある。バトンがゾーン内に入る前に次走者がバトンに触れたら、チームは失格となる。監察員はまた、競技者がゾーンから出る際には、バトンが受け取り側の選手の手の中だけにあることを確認しなければならない。

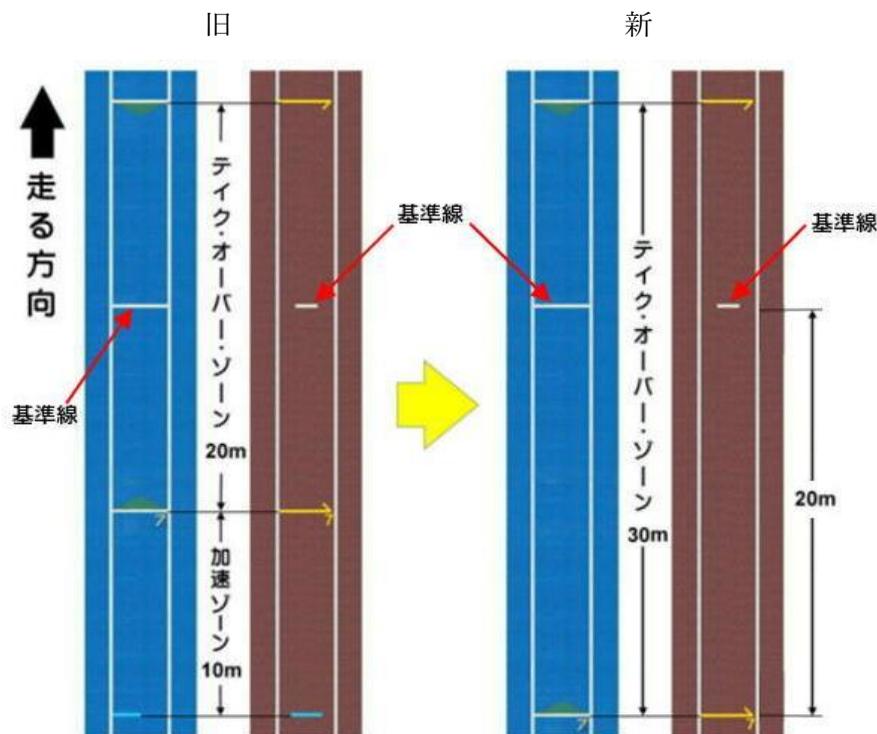
- 24.8 バトンを受取る競技者が唯一のバトン保持者となる瞬間まで、バトンを渡す競技者に対して TR17.3 が適用される。受渡した後は、バトンを受取った競技者に対して適用される。バトンを受ける前または渡した後、競技者は他の競技者への妨害を避けるため、走路が空くまで自分のレーンまたはその位置(ゾーン)にとどまる。TR17.3、17.4 は適用されない。但し、自分のレーンの外を走ったり、外で立ち止まったりすることによって、バトンを渡し終えた競技者が他のチームの競技者を妨害したときは、TR17.2 が適用される。

- 24.9 レース中、競技者が他チームのバトンを使ったり拾い上げた場合、そのチームは失格となる。相手チームは、有利にならない限り失格とはならない。

3 解説

4 × 100m リレーのテイク・オーバー・ゾーン、バトンパスが行える区間の長さが 20m から 30m に変更されます。つまり改正前のルールにある、テイク・オーバー・ゾーンの前方 10m 以内のところから走り始めてもよい加速ゾーン（通称「ブルーゾーン」）がある場合にそこでもバトンパスを行って良いことになります。

ルール改正に伴いトラック上のマーキング（ラインなど）もかわります。次の図、左側のものが右側ようになります。



新しくマーキングされていない競技場では、変更されるまで加速ゾーンの入口の助走マーク（通称、ブルーライン）がテイク・オーバー・ゾーンの入口です。その位置にラインテープを貼るようにしてください。

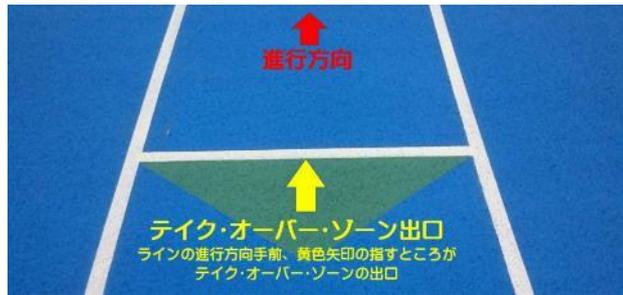
ルールに記載の「基準線」とは上図のテイク・オーバー・ゾーン内にある白線（横線）のこと、左の改正前はテイク・オーバー・ゾーンの中央（入口から 10m）でしたが右の改正後の場合はテイク・オーバー・ゾーンの入口から 20m にあります。

すべてのバトンパスにおいては、テイク・オーバー・ゾーン外から走り出してはならず、そのゾーンの中でスタートしなければならない。この規則に従わなければ、そのチームは失格となる。

*テイク・オーバー・ゾーンの出口を示すライン。

下の写真の白の横ラインです。

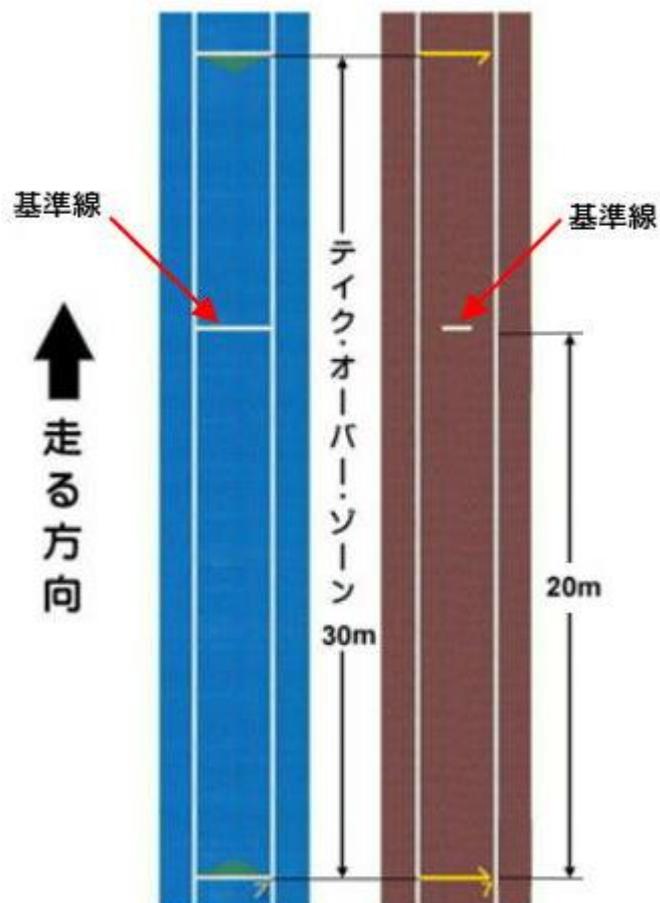
このラインの境目はスタート地点寄りのふち。ライン上はゾーンに含まれません。



*テイク・オーバー・ゾーンの入口を示すライン

下の写真の白の横ラインです。

このラインの境目はスタート地点寄りのふち。このライン上はゾーンに含まれます。



4 レース部門の規約の改正

現在

7.6 400mリレーレース

セパレートコースでおこなわれ同様の規則が適用される。4人×100mで男女混合チームも可能である。選手は、バトンを持って走らなければならない。バトンを落としたら拾わなくてはならず、必要なら、一度降車して再乗車しても構わない。このとき、自分のコースから離れて拾ってもよいが、拾った後はただちに自分のコースにもどり継続する。但し、他の選手を妨害したときは失格となる。バトンが規定エリア内で手渡されなかった場合は、規定エリアに戻って再度渡し直す。これはバトンの位置であって、車輪の位置ではない。バトンを渡し終えた選手は必ず自分のコースで待機し、すべての選手が通過したことを確認してから速やかにコース外へでること。走りおえた選手が他の選手を妨害したときはチーム全体を失格となる。

各テイク・オーバー・ゾーンは、センターラインを中心に20mとする。この範囲内でバトンを渡す。第1走者以外の走者は、テイク・オーバー・ゾーンの直前10mのところから走り始めても良い。

改訂

7.6 400mリレーレース

セパレートコースでおこなわれ同様の規則が適用される。4人×100mで男女混合チームも可能である。選手は、バトンを持って走らなければならない。バトンを渡し終えた選手は必ず自分のコースで待機し、すべての選手が通過したことを確認してから速やかにコース外へでること。走りおえた選手が他の選手を妨害したときはチーム全体を失格となる。

7.6.1 テイク・オーバー・ゾーン

テイク・オーバー・ゾーンは30mとし、ゾーンの入口から20mが基準線となる。ゾーンは、走る方向においてスタートラインに近い端を基点とする。各テイク・オーバー・ゾーンにおいて、バトンを受け取る際に移動を開始する前にゾーンに完全に入っていることを確認しなければならない。この動きは、ゾーン外のいかなる場所で開始されてもいけない。

7.6.2 バトンの受け渡し

バトンは、テイク・オーバー・ゾーン内で受け渡されなければならない。バトンの受け渡しは、受け取る競技者にバトンが触れた時点で始まり、受け取る競技者の手の中に完全に渡り、唯一のバトン保持者となった瞬間に成立する。それはあくまでもテイク・オーバー・ゾーン内でのバトンの位置のみが決定的なものであり、競技者の身体や車輪の位置ではない。テイク・オーバー・ゾーン外でのバトンの受け渡しは、失格となる。

バトンパスが開始され、バトンパスが完了していない状態でバトンを落とした場合には、バトンは渡し手（前走者）が拾わなくてはならない。バトンパスが完了し、受け手（後走者）が唯一の保持者となった後にバトン落としたら、受け手が拾わなくてはならない。

7.6.3 バトンの落下

もしバトンを落した場合、落とした競技者がバトンを拾って継続しなければならない。必要なら、一度降車して再乗車しても構わない。この場合、競技者は距離が短くないことを条件にバトンを拾うために自分のレーンから離れてもよい。加えて、そのような状況でバトンを落としたとき、バトンが横や進行方向（フィニッシュラインの先も含む）に転がり、拾い上げた後、競技者はバトンを落とした地点に戻ってレーンを再開しなければならない。上記の手続きが適正になされ、他の競技者を妨害しない限りは、バトンを落としても失格とはならない。競技者がこれらの規則に従わなければ、そのチームは失格となる。

5 まとめ

今まではほとんどの競技者がテイク・オーバー・ゾーンの入口のラインを乗車位置として前走者を待っていたが、新ルールになると乗車位置は競技者自身が考えなければならないと思います。今までどおりテイク・オーバー・ゾーンの入口のラインを利用すると失格になるおそれがあります。また、テイク・オーバー・ゾーンが30mありますので、バトンを受け取る場所によりかなり走る距離が変わってきます。今後作戦としてバトンの受取場所を検討するチームがでてくるとと思います。その際、まったく指導されていない競技者はどこの位置から乗車すればよいかわからずに迷ってしまうことがでてくるとと思います。各チームテイク・オーバー・ゾーンのどの位置から乗車すれば良いかしっかりと確認をお願いします。